

# 学 部 の 記 録

## — 人 事 異 動 —

### 〈採用〉

#### (教官の部)

4. 1 永尾 章曹 (日本研究 助教授)  
櫻井 哲夫 (ヨーロッパ研究 助手)  
實森 正子 (人間行動研究 助手)  
山下 彰一 (社会文化研究 助教授)  
山下 晋司 (比較文化研究 講師)  
安部 直人 (基礎科学研究 助手)  
6. 1 嶋本 伸雄 (情報行動基礎研究 助手)  
7. 1 早瀬 光司 (自然環境研究 助手)  
8. 1 淵上 克司 (ロシア語 講師)  
4. 1 邊見 茂 (基礎科学研究 教務補佐員)  
5. 1 北原 義典 (情報行動基礎研究 教務補佐員)

#### (事務の部)

4. 1 小川 京 (庶務係)  
安田 久司 (経理係)  
6. 1 山下富貴子 (用度係)

### 〈昇任〉

#### (教官の部)

4. 1 木本 忠昭 (社会文化研究 助教授)  
総合科学部助手より  
藤原 武弘 (人間行動研究 講師)  
福山分校助手より  
5. 1 小川 侃 (ヨーロッパ研究 助教授)  
総合科学部講師より  
石井 修 (英語 助教授)  
総合科学部講師より  
唐須 教光 (英語 助教授)  
総合科学部講師より  
永見 勇 (英語 助教授)  
総合科学部講師より  
西村 稚樹 (ドイツ語 助教授)  
総合科学部講師より  
中川 正之 (中国語 助教授)  
総合科学部講師より  
5. 15 成定 薫 (基礎科学研究 講師)  
大学教育センター助手より  
8. 1 間瀬 茂 (情報行動基礎研究 講師)  
東京工業大学理学部助手より

#### (事務の部)

4. 1 中井 薫二 (法・経済学部 事務長補佐)  
総合科学部用度係長より  
山口 豊 (経理係 主任)  
総合科学部経理係より

### 〈配置換〉

#### (教官の部)

3. 1 吉仲 正和 (基礎科学研究 助教授)  
東北大学へ  
4. 1 生和 秀敏 (人間行動研究 助教授)  
学校教育学部助教授より  
岡本 雅典 (社会文化研究 教授)  
経済学部へ

#### (事務の部)

4. 1 茗加 瑞一 (用度係 主任)  
施設部工事経理主任へ  
渡橋 英明 (庶務係)  
医学部附属病院管理課用度係へ  
中道 一博 (人事係)  
法・経済学部厚生補導係へ  
岡 正人 (学務第一係)  
医学部附属病院総務課庶務係へ  
国利 辰洋 (学務第二係)  
庶務部学事係へ  
田原 正治 (学務第二係)  
工学部人事係へ  
花岡 静三 (厚生補導係)  
附属学校総務係へ  
河野 進 (厚生補導係)  
学生部入学主幹入学試験係へ  
土江 典男 (用度係 係長)  
経理部管財課管財第二係長より  
日野 愷之 (用度係 主任)  
工学部用度係主任より  
山下 博司 (庶務係)  
附属学校総務係より  
上南 博史 (人事係)  
学生部学生第一係より  
上宮 昭紀 (学務第一係)  
学生部総務係より

出川 隆富 (学務第二係)  
 附属学校皆実附属学校係より  
 竹村 摂子 (学務第二係)  
 附属学校皆実附属学校係より  
 木村 永次 (厚生補導係)  
 学校教育学部図書係より  
 横山 信子 (情報行動科学コース)  
 庶務部文書係より

<辞職>

(教官の部)

3. 31 安田 三郎 (人間行動研究 教授)  
 関西学院大学教授へ  
 堤 正信 (日本研究 助手)  
 広島女子大学講師へ

5. 7 塚田 松雄 (自然環境研究 教授)  
 (事務の部)

3. 31 土肥 邦子 (情報行動科学コース)  
 4. 3 吉川 秋枝 (用度係)

<退職>

(教官の部)

4. 1 山崎 俊雄 (社会文化研究 教授)  
 (事務の部)

3. 30 奥田 啓子 (庶務係)

<転任>

(教官の部)

4. 1 西田 正 (英語 講師)  
 新潟大学教養部講師より

嶋 陸奥彦 (アジア研究 講師)  
 岐阜大学教養部講師より

(事務の部)

4. 1 原 裕司 (経理係)  
 島根大学へ

<併任>

4. 1 関 寛治 (社会文化研究 教授)  
 東京大学東洋文化研究所教授

<改姓>

4. 4 酒井喜美子 (社会文化研究 助手) 旧姓安倍  
 5. 21 若加 優子 (環境科学コース) 旧姓西田

海 外 渡 航 者

(出張および研修)

福田 幸夫 (ドイツ語 助教授)

渡航先 ドイツ連邦共和国

目 的 ドイツ語の研究

期 間 54.4.24 ~ 54.9.28

橋本 功 (英語 助教授)

渡航先 連合王国

目 的 初期近代英語の統語法の研究

期 間 54.7.16 ~ 55.9.30

黒川 正流 (人間行動研究 助教授)

渡航先 大韓民国

目 的 韓国の高等教育視察

期 間 54.4.27 ~ 54.5.8

嶋 陸奥彦 (アジア研究 講師)

渡航先 カナダ・アメリカ合衆国

目 的 米・加両国における朝鮮韓国研究の実状  
 視察

期 間 54.4.20 ~ 54.5.3

中根 周歩 (自然環境研究 助手)

渡航先 大韓民国

目 的 韓国漢江水系の栄養塩類・重金属動態調  
 査

期 間 54.4.30 ~ 54.5.10

津端 修一 (自然環境研究 教授)

渡航先 連合王国・オランダ・ドイツ連邦共和国・  
 フランス

目 的 欧州研究学園都市視察

期 間 54.5.26 ~ 54.6.10

好村 滋洋 (基礎科学研究 教授)

渡航先 フランス・ドイツ連邦共和国

目 的 日仏科学協力事業によるインバー合金の  
 磁気構造の研究及び中性子散乱と磁性の  
 国際会議出席並びに1979年磁気国際会  
 議出席

期 間 54.7.16 ~ 54.9.12

舟場 正富 (社会文化研究 助教授)

渡航先 アメリカ合衆国・カナダ・イタリア・  
 連合王国・フランス

目 的 第35回国際財政学会出席及び首都機能の  
 再配置に関する調査研究

期 間 54.7.30 ~ 54.9.30

小野 光代 (ドイツ語 助教授)

渡航先 チェコスロバキア・ドイツ連邦共和国・  
 フランス

目 的 プラハ新市裁判記録の証言録に基づく初  
 期新高独語期のドイツ筆記語の形態に関  
 する研究

期 間 54.7.11 ~ 54.10.16  
 永見 勇 (英語 助教授)  
 渡航先 アメリカ合衆国  
 目 的 信仰・科学・未来の国際会議出席  
 期 間 54.7.10 ~ 54.7.26  
 嶋本 伸雄 (情報行動基礎研究 助手)  
 渡航先 アメリカ合衆国  
 目 的 RNAポリメラーゼ反応機構の研究  
 期 間 54.7.24 ~ 54.8.26  
 江口 正晃 (基礎科学研究 助教授)  
 渡航先 ユーゴスラヴィア・フランス・スイス  
 目 的 日仏科学協力事業による群のスリタリ表  
 現セミナー出席及びLie群の等質空間上  
 の調和解析についての研究討議  
 期 間 54.9.1 ~ 54.10.15  
 多井 義郎 (自然環境研究 教授)  
 渡航先 ソヴィエト連邦  
 目 的 日ソ研究者交流事業による新第三紀微化  
 石層位学の研究  
 期 間 54.9.14 ~ 54.11.13  
 前田 渡 (情報行動基礎研究 教授)  
 渡航先 台湾  
 目 的 国際回路とシステム研究会議出席及びシ  
 ステム解析の研究  
 期 間 54.7.23 ~ 54.8.2  
 渡航先 アメリカ合衆国  
 目 的 グラフィック端末装置に関する研究

期 間 54.8.3 ~ 54.9.4  
 桧原 忠幹 (基礎科学研究 教授)  
 渡航先 ドイツ連邦共和国・スイス・フランス  
 目 的 中性子散乱と磁性の国際会議出席及び  
 1979年磁気国際会議出席並びに磁性研  
 究施設視察  
 期 間 54.8.26 ~ 54.9.18  
 藤井 博信 (基礎科学研究 助教授)  
 渡航先 ドイツ連邦共和国・スイス・フランス  
 目 的 中性子散乱と磁性の国際会議出席及び  
 1979年磁気国際会議出席並びに磁性研  
 究施設視察  
 期 間 54.8.26 ~ 54.9.18  
 西村 雅樹 (ドイツ語 助教授)  
 渡航先 オーストリア  
 目 的 ドイツ語及びドイツ文学の研究  
 期 間 54.9.16 ~ 55.9.15  
 栃木 省二 (自然環境研究 教授)  
 渡航先 ソヴィエト連邦  
 目 的 水工建設における工学地質問題に関する  
 国際シンポジウム出席  
 期 間 54.9.11 ~ 54.9.23  
 小林 文男 (アジア研究 助教授)  
 渡航先 中華人民共和国  
 目 的 中国の教育改革状況調査及び歴史学界の  
 動向調査  
 期 間 54.8.13 ~ 54.8.26

## 編 集 後 記

従来からの『飛翔』に対する様々な批判に充分応  
 え得たとは、まだいえないのですが、教職員と学生  
 の共同編集として、第13号をお届けします。これま  
 でも、『飛翔』は総合科学部における教職員と学生  
 とのコミュニケーションの共通の場として機能し  
 てきましたが、この役割を建設的な方向に一層充実  
 させて、『飛翔』を創っていきたくて希望していま  
 す。

本号に寄稿して下さった方々に厚くお礼を申し上  
 げます。そして各位に今後の御協力をお願いいたし  
 ます。

(広報委員長 坂本)

—「飛翔」を見捨てないで下さい—

「飛翔」も学部と同じく6年目を迎え、第13号が  
 長い苦汁に満ちた時を経て皆さんの御手元にありま  
 す。今回からは、新たに2年生と1年生が多数編集  
 に加わってくれることになり、古参の者も喜びにう  
 ちふるえつつ'79年度最初の「飛翔」に取組んでみ  
 ました。

13号の当初の発行予定は6月の下旬であったわけ  
 ですが、皆さんも御存知のごとく「コース決定問題  
 (情報行動科学コースの定員等をめぐる一連の問題  
 )」がこの春からもちあがり、これを「飛翔」でど  
 のように扱うのかということでも幾度となく学生編集  
 委員だけでなく、事務の方を含め広報委員の先生方  
 とも協議していく過程で発行を9月に延期せざるを

えない状況になってしまいました。

結論から申し上げれば、現段階においては「コース決定問題」についての十分な事実把握が困難であるということから、保留者及び来年度のコース決定についての『統一見解』が出たのちに「飛翔」で取り上げるという三者（広報委員・事務・学生）の合意を得るにとどまったわけです。（おそらく14号がその場となるでしょう。）

「コース決定問題」が一コース内にとどまらず総合科学部が内包しているであろう多くの矛盾・困難のひとつの象徴的なできごとであり、これをおざなりにしてしまうわけにはいかない争点を形成しているわけですが、これについては次号以下に譲るとして、この問題をめぐる過程でもうひとつ、今後の「飛翔」の意義づけや編集の方向性が重要な課題として浮かびあがってきました。

「飛翔」は国費によって学部報として発行されています。それ故に「飛翔」において企画として取り上げ、記事にしうる内容も制限されて当然であるかのように考えられる人もおられるかと思いますが、それでは果して学生が、貴重な自分の生活の何分の一かをさいて編集にたずさわることの意味はどこにあるのでしょうか。新設学部のPRのために学生が編集に参加しているわけでないことはあたりまえですが、では一体何を「飛翔」において語り、総合科学部について発言していけるのでしょうか。

これについては、皆さんの中にも種々の意見があり、いろいろな答えがかえってくると思いますが、あえて言わせていただくならば、学生が編集に参加することの意義は、学生であるからこそ自己の内包している、学部やその他諸々の外的状況についての疑問、意見、批判が外からの規制にこだわらず発現しうるということではないでしょうか。（もちろんそれは未熟で硬生であるかもしれませんが…）今までの「飛翔」は、編集委員とは名ばかりの有志の学生が主体となって企画・編集を担ってきていたわけですがそれ故に多くの壁につきあたり、一部の学生だけの「飛翔」（単少？）でしかありませんでした。そうした反省の上に立って、学生が「飛翔」に関与していくことの難かしさをいかに克服していくかを考えてみますと、学生の編集委員だけが、ひとりよがりであれやこれやと言っているでもそう主張するだけのバックボーンがないとまるっきりお話にならないのです。もちろんバックボーンとは総合科学部生の支持や批判や意見といった、「飛翔」に取り上げる記事に対する諸々の反響であると言い換えられると思います。これまでに述べたような理由で学生が編集に関与していく以上、より多くの皆さんの意見や批判が誌上に発現することを望みますし、そのための努力は一層続けていきたいと考えるわけでありませう。

（編集委員77生浜田）

## 昭和54年度「飛翔」編集委員名簿

教官	坂本 公延,	瀬川 道治,	舟橋 喜恵		
事務官	東田 操				
学生					
52生	石田 文延,	高岡 里美,	浜田 敏彦,	平岡 耕一	
53生	足立 哲男,	井上 理,	岡田 大介,	中上 京治,	中村 正憲,
	伏見健一郎,	森久 聡子,	米田伊公子		
54生	泉 哲哉,	大西 保子,	金子 誠,	佐本 尚子,	竹田 宣人,
	畑尾 武海,	宮崎 三哉			

### 原稿募集

「飛翔」が自由投稿で埋まるほどの投稿を期待しています。内容の種類は問いません。特に学生諸君の研究発表の場として大いに活用してください。また表紙を飾るイラストや写真も募集しています。どちらも編集委員か厚生補導係へ随時持ち寄ってください。